

2016年度 第1回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録 確定稿

- 開催日時：2016年5月10日（火）18時30分～20時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター 第3会議室（4階）
- 出席委員：五十嵐強、荘雄一朗、竹谷陽子、辻信明、野崎信行、安富真理子、
渡辺裕一<以上7名、敬称略、五十音順>
- 出席職員：小平福祉活動推進課長、丸木総務課長、飯塚ボランティア・市民活動センター
係主任、嶋田主事、長山コーディネーター

【配布資料】

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(2016年3～4月)
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告(2016年3～4月)
- 資料 3：ボランティアコーディネート実績(2016年3～4月)
- 資料 4：2016年度西東京ボランティア・市民活動センター予定表（5～6月）
- 資料 5：2016年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
- 資料 6：3つの柱について
- 資料別紙：2015年度事業報告
- 資料別紙：2016年度事業計画
- 資料別紙：2016年度西東京ボランティア・市民活動センター事業・事務執行計画および
役割分担表
- 資料別冊：2015年度第5回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

◎2016年4月1日付人事異動の報告

- 福祉活動推進課長兼ボランティア・市民活動センター係長：小平、ボランティア・市民活動センター係主任：飯塚の着任の報告および今年度の職員体制の報告を行う。
- 前任の丸木が総務課長に、中澤が相談支援係長となり離任したことの報告と離任の挨拶を行う。

◎熊本地震災害における支援金の説明と募金ご協力をお願い

- 被災地で活動するボランティアを支えるための支援金について説明と募金ご協力をお願いを行う。

1. 報 告 事 項

(1). 業務報告（2016年3月・4月）および予定（2016年5月・6月）について

- 事務局より2016年3月から4月末までの業務について報告と5月・6月の予定の報告を行う。
- 質疑および協議
- 委員長：災害ボランティアセンターワーキンググループの設置経緯や趣旨について伺いたい。
- 事務局：東日本大震災以降、西東京市で大災害が起きた際に災害ボランティアセンターを立ち上げるための備え、行政と社協で災害に関しての協定書を締結する動き、この2点から職員レベルで検討する組織を作ったという経緯がある。組織は事務局長を筆頭に社協職員のみで構成さ

れ、各部署横断的に職員を集め、災害対応チームを組織し、そのチームを災害ボランティアセンターワーキンググループと、災害時の職員の初動を考える初動訓練のワーキンググループに2つに分けている。

委員：ボランティアの登録者数の減少の理由について伺いたい。

事務局：4月から登録者情報を管理するシステムが新しくなり、休眠していた登録者で連絡がつかなくなった方が多数いたため、登録から削除したことが影響していると考えます。

委員長：わんぱく相撲への関わりについて伺いたい。

事務局：わんぱく相撲への参加はこれまでも地域福祉推進係が関わり、西東京青年会議所と連携をしてきたが、今回からボランティア・市民活動センターも関わらせてもらうことになった。

(2). 2015年度事業報告および2016年度事業計画について

○事務局より、2015年度事業報告と2016年度事業計画、役割分担及び事務執行計画について報告を行う。

委員長：ぼらんていあ倶楽部のカラー紙面となった経緯の経費・発行部数について伺いたい。

事務局：ネット注文業者に見積もりをしたところ、労力・用紙代とカラー化した場合でもかかる費用が若干高くなる程度であったこと、カラー化することでの見やすいことなどを勘案し、切り替えた。印刷部数は4000部で、概算で2万円強である。

委員長：ボランティアのつどいの共催はうまくいきそうか伺いたい。

事務局：難しいだろうが最大限努力をする。ボランティアのつどいの実行委員がかなり少ないため、再度関わる意思を持ってもらう方法を考える必要がある。

委員長：ボランティアのつどいの開催時期について伺いたい。

事務局：NPO市民フェスティバルは1月を予定しているので、3月でなく1月となる可能性が高い。

委員：委託販売の経緯や販売を行う理由と会計処理について

事務局：自己財源づくりの一環として始めた。まりもの手芸品は非常に好評で、グループのモチベーション向上にもつながっている。なお、綿菓子の販売も自己財源づくりの1つで、わんぱく相撲も当初はボランティア・市民活動センターが関わって販売していた。販売収益は自己財源として入り、講座実施の際の講師代や資料代に充てている。

委員長：夏！体験ボランティアキャンペーン連絡会について伺いたい。

事務局：各区市町村で夏！体験ボランティアは実施している。連絡会は都内実施団体が集まり、情報交換が中心であり、取り組み方やうまくいったこと、失敗したことなどを共有をしている。

委員：西東京日本語ボランティア連絡会と日本語ボランティア教室について伺いたい。

事務局：何らかの理由のため日本語が話せない子どもなどに日本語を教える活動を行っているグループが市内にあり、グループ同士で横のつながりを図るための情報交換を年2回開催している。日本語ボランティア教室は海外で長く住んでいた方が日本に戻ってきた際に、日本語が話せない子どもを支援するために始まったと認識している。12団体ほどあり、文化振興課が関わっている。

2. 審議事項

(1). 2015年度第6回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録(未定稿)について

- 2015年度第6回運営委員会の記録について確認を行う。確認終了したので確定稿にする。

3. 協議事項

(1). 今後の事業の方向性について

○事務局より資料について説明を行う。

*今後の進め方について

1月の運営委員会で出された3つの柱を基に検討すること、正副委員長と事務局との打ち合わせを偶数月に開催することが委員長より提案され了承される。

*3つの柱について（委員からの説明）

①コーディネート機能の強化

ボランティアをしたい人と必要な人を幅広くつなげていく機能を強化すること。最近、コーディネート機能を他部署も持つようになり、拡散している。ボランティアセンターとしてのコーディネート機能をどう発揮・強化していくのが大切。

②子どもだけを対象とするのではない福祉教育の取り組み

子ども対象だけではない、いわゆる「ボランティア文化」を作るために福祉教育への取り組みが必要である。

③プラットフォームづくり

課題がプラットフォーム（駅）に情報として寄せられ、プラットフォームでは課題解決のために組織を作ったり、その組織が問題解決のためにプラットフォームを出発していくというイメージ。地域に必要なボランティア活動が何か、課題を受け止め、活動や組織を生み出していくことが大切である。プラットフォームが複数でき、広がっていくことも大事ではあるが、ボランティア・市民活動センターがどんなプラットフォーム機能を考えるかが大事。

○意見交換

委員長：関係機関が多くあり、どこが何をやっているのか、情報もどこから入ってきたかわからない。

その辺りが整理しなければプラットフォームとしての機能が果たされていないのではないか。

委員：グループができあがると、他の団体の取り組み方を学べたり、他の課題も見えてきたり、つながりもできて広がってくる。ボランティア・市民活動センターの役割としては市民や団体をたきつけることが大切である。プラットフォームとしてそのような機能を果たしてほしい。

委員：まだボランティア・市民活動センターに寄せられる仕組みができていないのではないか。そのような中で、他に相談する場があるとそちらに相談をして動き出してしまうといった流れができていだろう。困ったときにボラセンに相談できる体制にしてもらうことが大切。

委員：やることははっきりしていると人が集まる。立案すればやりたい人が集うのではないか。ボランティアをしっかりと育てて質の向上をしていく機会が必要。

事務局：コーディネート機能とプラットフォーム機能が拡散しているというのはその通りだろう。課題がボランティアセンターに集まる、そのためにどうするか考えて人を育てる、人が育ち活動が始まればトラブルや協力関係が生まれていくのでコーディネートする、また新たな課題が生まれれば団体に集まってもらい調整する、そこから派生するのが福祉教育であったりプラ

ットホーム。現在課題が集まるようになっていないのはボランティア・市民活動センターや社協の認知度が低いからであり、地域のニーズが集まるようにする方法がわかってくると明確になる。

委員：ボランティアセンターも自負をもって良い、もう一度強化・見直すということによい。

委員長：ほっとネットとボランティア・市民活動センターで情報共有・役割分担を行うことについて

事務局：ほっとネットと取り組んでいる事例は以前からある。ほっとネットに地域の課題が寄せられ、ほっとネットのコーディネーターからボランティア紹介の依頼が入ることがある。直接課題が寄せられることは少なくなったが、課題を解決するためにボランティアのコーディネートを一緒に支援に入るとは現在も行っている。元々はボランティア・市民活動センターがやっていたことかもしれないが、今はほっとネットが様々な社会資源を使って支援に入っている現状である。様々な機関がプラットフォーム機能を持っていると感じる。

委員長：それぞれ役割分担を共有して業務として日常の中で提携していくという意識がないといけない。現在の業務の流れの中で、どの部分でどのように連携し、実施するのか、組み立てがより良く機能するための働きかけができていないかが、正にコーディネート機能の強化であろう。

事務局：①コーディネート機能の強化と②子どもだけを対象としない福祉教育の取り組みの2つに関しては、今までボランティア・市民活動センターがやってこなかった部分。さらに多様なコーディネート、出張講座等を行うことで今まで求められてこなかったものが求められるようになり、提案・発信をしていくことも多様なコーディネートになる。各委員から様々な意見をいただき形作れるとアクションプランになっていくだろう。

委員：人材をほっとネットやふれまちに供給するのならいたって簡単な話である。ボランティアの質をもう少し違う方向や質を高めることは決して不可能なことではない。それをほっとネットに向けよう等というコーディネートは、従来の紹介方法と何が違うのか。社協としてボランティア・市民活動センターは人材を供給することと位置付けるのなら、それはそれで一つの位置づけだが、もう少し社協が体系化された組織になるよう検討してほしい。

委員：活動したいがどうしたらよいかわからない人を見つけてつなげることや、ボランティア・市民活動センターが知らないボランティア募集情報がきちんと集まるようになれば、コーディネートの幅が広がってくる。コーディネート機能の強化として、見える形で用意できるか、具体的手が打てるかどうかだろう。

委員長：何をしてほしいが明確であればすぐできる。ボランティアは社会に貢献したいという意識のレベルは高く、これを担ってほしいと言えば能力を発揮してくれる。コーディネートとしてどこをどうすれば良いかは中の人より、外の人の方が見えることがある。自分で決めさせず組織として何を発するかを明確にする必要がある。

事務局：課題解決のために社協だけでなく様々な組織が動いている。その課題をいかにキャッチするか、関係者で共有するためのプラットフォームがあり、ボランティア・市民活動センターが必要な人材を養成するための講座実施や、人材育成のためのアクションを起こすことなどが必要。

委員：コーディネートが既存のものを集めてではなく創り出していくことにより、生き生きとした部分が見えてくる可能性がある。それは課題を受け止めているからできることである。

NPO市民フェスティバルで、ボランティアグループの人が増えたというのは、中間支援組

織として支援していることがわかる。自分に合う活動がないと思った人に、ボランティア・市民活動センターがブースを出して、違うボランティア活動も紹介できるという幅広い相談を受けても良い。それもコーディネート機能を強化した部分の1つになると思われる。

委員長：NPO市民フェスティバルの中でのボランティア・市民活動センターの在り方が明確になった。また、新しい課題を見つけてそれを解決していくことがボランティア・市民活動センターの仕事だと考える。新しい課題についてボランティアの養成機関として明確な目標をもって良い。組織化していつ育ったら預けるという、明確なコーディネート機能ではないか。

事務局：ボランティア・市民活動センターのミッションは、『つなぐ』『いかに』『うみだす』という3つがある。一番大事なものは「うみだす」というミッションである。様々な課題が出てくる中で、いろいろなものを生み出していかなければならない。

委員長：情報としては、ほっとネットよりもふれまち等よりも、一番先端的な情報を持たなくてはならない。いま地域課題がどこにあるのかを知る、ここに来ればどんなことでも聞くことができるというようにならなければならない。ゆめこらぼやりんくなどとの関係では、具体的な方法やアプローチの方法など役割分担意識を詰めるという作業がまず必要。実績のあるものをもっと育てていく必要がある。また社会人を含めたボランティア教育をどう体系化・組織化していくか。それぞれ各所で幅広い情報交換をして他地域がどう行っているか、新たなボランティア育成の方法などを聞いてもらいたい。

委員：学校には「地域安全連絡会」が立ち上がっている。活動可能な方が、子どもの登下校の時間に合わせてパトロールする地域がある。このような呼びかけができれば良い。また、パラリンピックで活躍している人との交流、スポーツしましょうというところから、ボランティアにつなげていくという発想が出てくるかもしれない。それを感じ取って動いてもらえるとうれしい。

委員長：今回出た具体的な課題を、実現の可否、何をコーディネートするかなど認識が不十分であるところなどを整理して次回以降点検していきたい。

(2). 西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ運営委員会の傍聴について

委員長：ゆめこらぼの運営委員会と交流もしくは正副委員長同士の話し合いについて伺いたい。

事務局：ゆめこらぼ側も連携・協調のため、まずは傍聴からということで異議はなかった。ゆめこらぼ側と確認し、両方の正副委員長との話し合いの場をセッティングし、今後の連携の進め方についての具体的な話し合いをしていきたい。

委員長：話し合いの結果については、7月の運営委員会で結果を報告する。

4. そ の 他

(1). 次回運営委員会開催日程について

- 開催日時：2016年7月12日（火）18時30分～20時30分まで
- 開催場所：田無総合福祉センター第3会議室（4階）
- 以上をもって、2016年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議、協議を終了し、閉会した。